滿洲日報

社説

釐金税撤廢は可能なりや
新關税實施の眼目たる

大廈高樓は強固なる地盤の上に建設せられればならぬ。而して強固なる地盤は一朝一夕にして構成されるものではないが大廈高樓を建設せんとするものは出來るだけの準備を必要とする。中華民國が革命に生き建設に努力せんとするに當りては先づ何よりも第一に強固なる地盤の構成に心懸ければならぬ筈である。この意味において吾人は支那が建設更生に焦躁する所以を領承し大に隣邦人として同情を禁じ得ぬのである。恐らく幣原外相の支那の國民的要望に對し援助を惜むものにあらずといふたのも吾人と同じ出發點にあることゝ思ふ。◆然るに國民政府の人々は餘りに焦躁なるの結果、あるひは何らの準備用意もなく理想に向つて猪突するが如きことあるは危險千萬といはればならぬ。今次の關税自主の實施の如きも中華民國としては慶賀に堪へぬ次第であるがさて實質如何といふことになるさ對外的よりも寧ろ國內的に新關税率の實施を裏切るやうなことがないであらうか。

◇

中華民國としては自らも認めてゐるところの最惡税釐金の撤廢を斷行することを條件として新關税々則の實施を行はればならぬ筈であつた。勿論、中央政府からは地方官憲に對し盛んに釐金税および釐金類似の賦課を撤廢すべきことを嚴命しつゝあつたやうであるが地方官憲としては地方官憲としての立場があり若し地方の收入財源であるところの釐金税および釐金類似のものを撤廢するとなれば他に何等らか代るべき收入財源を發見するにあらざれば地方官憲たるの機能を中止するより外はないといふことになるのである。換言すれば地方官憲に何らの財源を與へず彼らの收入財源として來たところの釐金税ならびに釐金類似のものを撤廢するとなれば矛盾撞着の起り問題の惹起することは自明の理であるといはればならぬ。若し從來よりの釐金税および釐金類似の收入財源をも抛棄し地方官憲の存在をも肯定するといふには如何にしても他に何らかの方法を講ぜればたらぬとは當然の成行きといはればならぬ。果して然らば右の結果如何なることになるかといへば地方官憲は結局、背に腹はかへられぬから何らかの名目の下に種々の新規課税を企つるであらうことは想像するに難くないところと觀ればなるまい。

◇

すなはち釐金税および釐金類似の課税は撤廢せられるであらうけれども異つた名目の下に釐金税以上の惡税が賦課せられるといふことになるのである。釐金税とへ最惡税なりと蔣介石氏の口から聲明せられてゐるにも拘らず、それ以上の惡税、すなはち最々惡税が異つた名目の下に賦課せられるといふのであるから如何に苛斂誅求に馴れ輸入税などに無關心なる支那の民衆といへども愈よ現實に物價の上に影響し來るにおいては默つて已むべきではあるまいと思ふ。現に廣東省の如き釐金税の撤廢に反對して來る方は寧ろ正直といふべく中央政府の命令を沒有法子として遵奉してゐるところの各省などは釐金税は立派に撤廢したと稱しその釐金以上の惡税を別の名目の下に新規賦課するにおいては新關税の實施に意義あらしむるところの釐金税の撤廢に誠實なるものといふことは出來ぬのである。

◇

今次の新關税實施の眼目とするところは收入主義と國內の産業保護にあつたことは新税率を一覽して直ちに領會することの出來るものである。收入主義は當然のことゝして但だ問題となるのは支那の歴史と現實とに鑑み一億元もの增收が悉く中央に集中するといふことは中央と地方との制度に何らの改革をも加へざる中華民國として妥當公正なりや否やと疑はざるを得ぬのである。それから保護政策も世界の大勢から推して當然の歸結であることに相違ないとして支那の現實に卽して考へたときに急角度の保護關税主義の結果、地均らしの出來て居らぬ支那の産業界では却て一般民衆の生活を抑壓するのことにならぬであらうと疑はざるを得ないのである。折角、關税の障壁を高くして國內産業を保護せんとしても支那の現狀では保護せらるべき筈の産業に何らの準備用意もなく消費者たる民衆は徒らなる收入主義の犧牲となるやうなことはないであらうか。吾人が中華民國の責任者に對し不意打ちなり暗打ちなりといふ所以のものは必ずしも對外的にのみいふのでなくして支那四億の民衆において釐金税撤廢または産業上の現實において地均しが出來てゐるか否か大廈高樓を建設するに危險なきまでに強固なる地盤が出來てゐるか否かを疑はざるを得ぬを遺憾とするものである。

幣原代理首相で擧黨一致押進める
十日前後首相の意嚮を徵した上 黨各機關に諮り決定

【東京四日發電通】濱口首相の經過は頗る順調であるとは云へ半月餘に迫つた休會明け議會に臨むことは假へ首相自身は出ると云つても無理であるから政府、與黨は協力これを强留め後一月位靜養せしめそれまでは幣原首相代理を以て押通すことに大體首腦部の方針は一致してゐるので十日前後濱口首相に會見してその意向を聽取した上それぐの機關に諮つて決定をなすはずであるが、これに對しては首相も異存なき模樣である、只これに對し與黨の少壯派は強に決議を發表せる由もあり、來る十日前後會合の上これが對策を講ずる意向を示すに至つてゐるから首相代理問題はなほ紆餘曲折を免れぬ形勢に在る、併しこの際內紛を起すは敵に乘ぜられる虞あり結局幹部の慰撫に依り多少の不便は忍んでも擧黨一致幣原首相代理を繼續することにならう

濱口首相は十日頃愈よ退院するか
普通人と殆んど變らぬ程のこの頃の健康振り

【東京四日發電通】濱口首相四日午前九時の容體は體溫三十六度二分、脈搏六十、呼吸十三で通常の健康體と少しも變らず、食物も通常人と同じく何でも攝取して居り四日は南向の窓から射込む暖かい陽光を浴びつゝベッドの周圍をこつくと歩き廻つてゐた、首相の當面の問題は退院であるが退院して官邸に養生するか、或は近くの溫泉に轉地するかいづれともまだ決定してゐない、鹽田博士は從來廿五日頃から「もうそろく退院しても良い」と保證した位で外科的方面は完全であるが、眞鍋主治醫は內科的見地から大事を取つて豫後の恢復に努め「設備の不完成な官邸より病院に居て療養しつゝ病院から議會に通つた方が良い」と云ふ意見であつたが、最近周圍の空氣が退院說に傾いて來たので眞鍋主治醫も折れて大體十日前後の暖かい日を選んで官邸に歸ることになる模樣である

六年上半期貿易は一層衰勢を辿るか
入超額は一億圓を出るまい 財界有力筋の觀測

金解禁第一年たる昭和五年の對外貿易が果して如何なる成績を示すかは頗る各方面の注目を惹いて居たが大藏省發表に依る十二月廿五日までの內地植民地合算入超額は一億六千三百餘萬圓を示し、これを前年同期に比較すれば七百餘萬圓の減退を來してゐる、從つてこの計數のみから見れば金解禁第一年の對外貿易は頗る順調に推移し相當の好成績を納めたかに見えるしかも右同期の內地植民地合算額における輸出入額比較を見るに輸出は六億九千百萬圓、輸入は六億九千八百萬圓、その合計額實に十三億八千九百萬圓と云ふ激減を示し、貿易の萎縮衰調が如何に甚だしいかを物語つて居り、それだけ金解禁の貿易を初め各種の商取引、國內産業に及ぼせる影響の如何に深甚であるかを思はせる、勿論この貿易の衰勢は必ずしも金解禁の影響のみによるものではなく世界的經濟界の不況、銀相場の暴落、緊縮政策の徹底等の諸原因が相錯綜して此の現象を呈ぜしめたことは他の種々の經濟的事象と同樣であるが何れにしても對外貿易のこの萎縮的實績は我國一般經濟界の萎縮沈衰の實情を立證してゐるものであると云へやう、然らば解禁第二年たる昭和六年度の貿易の趨勢は果して何う成り行くであらうか、尙低迷不安狀態を脫しきれざる一般財界の情勢と相俟つて其の推移如何は頗る注目すべきものがあらうと思はれる、今これに就て明年上半期における貿易の趨勢に對する財界有力者の觀測を綜合すれば左の如くである

昭和五年 の貿易は年初に當つて著るしく悲觀されたが同下半期に至つて意想外に出超狀態を繼續し國際貸借上有利なる形勢を馴致した、これは輸出の主要なる生糸の賣れ行が一時に[illegible]よくなつたのにも依るが一面の理由は入超額を多くする程に財界の活動が充分でなかつたことにも依る、從つてこの情勢は五年上半期にも持ち越されて一般に輸入額は相當減少するであらうと見られる、殊に棉花の如き例年ならば十一、二月頃から翌年上半期の三、四月にかけて多量に買ひつけられることになつて居るが現在の所海外の關税、銀安等の關係からその製品たる綿糸布の賣れ行きが大に制限されてゐるためにこの際特に多量の買ひつけの必要とせずなるべくストックを避ける方針を執つてゐるので今後特殊の事情が起らざる限り輸入の急增を見ることはないと言はれて居る

一方輸出 關係に就てみるに生絲の輸出は五年上半期において絲價補償法の關係から限まれ僅に十九萬俵といふ減少を示したが、六年度は急增を見ないまでも恐らく倍の二十四、五萬俵程度の輸出は示すであらうことは目下見て充分確信的に豫測され[illegible]期の如く輸入の關係は依然振興の氣勢を見えざる今日極めて消極的たるは免れな[illegible]れど先づこの分では相當[illegible]移すべく、若しそれ海外の[illegible]幾分良化するにおいては國[illegible]急落して來た關係上相當の[illegible]加ー期待し得られぬでもな[illegible]ふ樂觀的豫想も相當有力に[illegible]ゐる

然し大勢 において[illegible]入額共に增加の期待は未だ[illegible]く、殊に輸入の如きは益々[illegible]縮勢を辿つて居るから六年[illegible]の貿易額は總體において一[illegible]すべく、入超額の如きは恐[illegible]千萬圓內外一億圓を出づる[illegible]ないであらうといふ觀測が[illegible]て居る【東京支社特信】

支那の行く先き
平和と建設示現するか
◇…島屋進治

先づ何よりも、山西、西北兩軍が當分現狀維持の下に落つくことになつたといふことは、今後の支那が、平和を祝福しながら、新らしいステップを踏み出してゆくであらうと考へるためには、一つの暗い影である、折角大きな切開手術を行ひながら、肝腎の病根を取り去らずに打ち捨て置くに等しいから

張學良氏對蔣介石氏、東北對南京の間にもまた、平和な思ふよりも、冷たい溝渠が、日とともに大きくなりつゝあるのが、おぼろげながら感ぜられる、張氏離寧直前における一抹の氣まずさ、天津に歸來してからの言動、奉天各機關のいはゆる蔣、張安協說に對する猜疑、秘ごもはむしろ、あの雪の山海關を過ぐる、あわたゞしい軍馬のざわめきが、どこからともなく耳朶をかすめるのをすら覺える

蔣氏の共産軍討伐が失敗に終つたことは、更に何を考へさせるか何はさておいても、これは決してあの一帶の地方に明るい平和がよみがへることを思はせるものではない。

國民黨々部問題にあつても、多くの不安な影が消えてゐない。下級黨部を抑壓するとさ、大赦令を出して政治犯を釋放することさ、更に反對派政客の主張に聽くことさによつて、黨の獨裁、蔣氏の獨裁に對する反對の聲を和げることに努力されてゐるやうだが、一部下級黨員の不平、反對政客の策動はこれによつて取り除かれやうとは信じられぬ。南京政權が、支那全國民の一部たる國民黨の黨員たるもの、更にその黨員たるものゝ一部によつて握られてゐる間、永久にこの不安は除き去るとは出來ぬ

これ等の相互關係みつぎ合せてみると、南京政府のいはゆる全國統一は、なほ未だ完成されたものとはいひ難い。たゞ蔣氏獨裁、國民黨一黨專制の放棄、全階級の參政を目標として準備されてゐる國民會議ばかりが、わづかばかりではいるが、支那に平和をもたらすための唯一の望みである。

しかし國民會議は、さきに第三次全國代表大會において、曖昧であつた孫文の遺敎に的確な解釋を與へ、國民黨の獨裁政治を民國二十三年まで繼續すべき原則とさもに、その開催の必要なきことを決定したものであり、徒らに反對派の策を除くのみには、この法理的矛盾が、却て反對派に乘ぜしめる機とはなりはせぬか。のみならず、國民會議は全國民の意思を代表すべきものであるだけに、その招集の方法如何によつては、獨裁を續けるよりも更に容易ならぬ事態を惹き起さぬとは保し難い。

國會の開催、地方自治の實施、産業開發、鐵道建設計畫の實現、それから、それから……と、支那は果して日々たる平和と建設との途を辿るであらうか。何ごとも「ゆく先」を語ることは、人間の分際として、誠に過ぎた慾望ではある

わが在支紡績業は致命的打擊を蒙る
一昨日から實施した新出廠税 船津氏から嚴談

【上海特電四日發】財政部は一月三日から一般紡績業者に新出廠税を徵取することを通告したがこれによれば廿三番手以下の税金は約三倍となり、更に支那廠に對しては國貨獎勵を理由に拂ひ戻しを行ふものゝ如く從つて外國廠殊に日本の在支紡績業は致命的打擊をうけるため船津辰一郞氏は目下南京に赴き嚴重交涉中である、なほ在支紡績業者は地方官憲と嚴獄契約を締結して今日まで營業し來つたゝめこれを外交的交涉に移すことが出來ない立場にある

社頭雪【懸賞寫眞乙賞入選】 大連 水野正利氏

歳末大決濟豫想外に平穩
積極的に資金の需要は起らず 金融市場依然緩漫

【東京四日發電通】歳末三十一日の歳末大決濟は豫想外に平穩に經過し、當日コールレートは午前中翌日拂ひ一錢四厘五毛にて取引きれたが、午後は一錢一厘五毛ゝ協定率近くに落込み、仕手側の手許に過剩を生ずるに至つた、當日繰越された日本銀行[illegible]行高十五億三百六十萬一千[illegible]出し八億千八百九十三萬五[illegible]示したが、午後には手許[illegible]放して大藏省證券に放資し[illegible]日本銀行に償還するものが[illegible]ので來る六日に繰越され[illegible]一日の帳尻は銀行十四億[illegible]は七億臺に落込んでゐるこ[illegible]である、而して目先金融界[illegible]ては一月二十日に大藏省證[illegible]還又は借替へ、又三月十五[illegible]限到着する國債の借替條[illegible]等に次で一月末決濟の後[illegible]日舊季節決濟を控へた季節[illegible]の入用あり、一面低物價[illegible]肩替した單名手形の期限[illegible]當多忙を豫想せられてゐる[illegible]勢としては積極的に資金の[illegible]喚起する事情がないので[illegible]緩漫趨勢は依然として斷[illegible]である

正月松の内は片瀬で暮す
仙石總裁の漫談

仙石滿鐵總裁は歳末の三十一日午前九時東京發片瀬に向つたが例年の如く同地別莊において新年を迎へ松の內のあひだ悠々閑日月に耽る筈である、その出發に先立ち記者は總裁と面會し例の漫談を得たので左に紹介する。

讀書もしない

記者「お正月は何處で暮らされますか」
總裁「片瀬に行く」
記者「片瀬には每年行かれるやうですね」
總裁「然うぢや、あそこはちつぽけな別莊を持つて居るのでな」
記者「そこでは一體何を日課にされて居ます」
總裁「何も用はない、一日中ブラくして居るのぢや」
記者「何か御趣味があるでせう、例へば詩を作るとか、讀書をするとか——」
總裁「至つて無風流ぢや、詩も俳句もやらぬ、讀書もせぬ」
記者「他人には大分讀書をすゝめられるではありませんか」
總裁「然うぢや、若い人達は良い本をウンと讀んで處世や仕ごとに利用しなければならぬ」
記者「あなたも却々お好きではありませんか」
總裁「若い時分はなア、年を老ると何うも其氣力さへない嘆い」

總裁が動けば

記者「却々何うしてお元氣ではないですか、長老會議や何んやかやと御活動で——」
總裁「いや駄目ぢや、政治のことなんか僕には判らない、只僕は友人達の身の上を心配したまでぢやそれを新聞記者が仰々しくつけまわすからいかん」
記者「そこが問題で、新聞記者は總裁が然う言はれるからハイ左樣ならと引き退る譯には行かんのではないですか」
總裁「何うしてぢや?」
記者「でも總裁が動かれると、政治が動くことが屢々ありますから」
總裁「フム、まあえゝ、僕には判らんことぢや」

地曳き網の快

記者「避寒地なら溫かい熱海はいくらでもあるのに、特に片瀬にばかり行かれるわけは」
總裁「親しい友人が居るからぢや」
記者「友人と言ひますと——」
總裁「地曳き網の仲間ぢや」
記者「總裁も自分で曳かれるのですか」
總裁「然うぢや、アレは却々運動になつていゝ、尤もモウ老人のことぢや、冬寒い時はチト何うも困るわい」
記者「何が漁れます」
總裁「いろくぢや、時にはこんな大きな(手振りで)鯛が漁れる」
記者「釣は」
總裁「面倒臭いのでやらん」

政治は判らん

記者「今度の議會はいろくな問題が山積してゐるので政府も與黨も大變ですね」
總裁「ヘエ、然うかなア」
記者「政局を何う思はれます」
總裁「何うも思はん、成るやうに成るぢやらう」
記者「首相代理問題などは」
總裁「政治のことなら御免を蒙るなア」
記者「何うも二の句がつげませんなア」
總裁「だから聽かん方がいゝ」

不景氣も底だよ

記者「總裁は我國現下の不景氣を何う思はれますか?」
總裁「モウ大體底を突いて居るのぢやないか、國內の物價が安くなつたので輸出なんかも多少は良くなるぢやらう」
記者「生絲の輸出が大分增す傾向だと言ひますね」
總裁「然うぢや」
記者「對外貿易の振興策として第一に對支輸出の振興方法を講ずるの必要があるのではないですか」
總裁「フーム」
と、何か他のことを考へてゐるらしく應じない。

憂ふべき世相

記者「この頃不景氣深刻で、生活難から家庭的悲慘事が相つぐやうですね」
總裁「ウム全くぢや、親子兄弟肉親殺傷など憂ふべき事態が大分多いやうだね」
記者「強盜竊盜殺人なども……」
總裁「いつも不思議に思ふことは元巡査などの犯罪が多いことぢやあれは何うも生兵法大傷のもとでなまじツか法律の生嚙ぢりした爲めぢやらう、これは處世上心得べきことで何事も生嚙ぢりが一番いかん」

總裁とカフエ

記者「總裁は今流行のレビューを御覽になつた事がありますか」
總裁「ない、それは何ぢや」
記者「裸體踊りに類したものでエロ、グロなどゝ云つて險惡な世相の反面、あゝ云ふのが又却々盛んなものです」
總裁「ホホウ」
記者「何うです、お忍びで一ッ御覽になつては」
總裁「フ、フ、フ、」
記者「カフエーなども如何です」
總裁「大阪のカフエーは却々華美なものぢや、三年前に行つて見たのぢやがあのサービス振りは東京の者は及ばん」
記者「するとこの春大分評判になつた總裁のカフエー行きは下關が初めてぢやなかつたのですな」
總裁「何しろ大阪のカフエーは面白いぢや」
記者「その大阪のカフエーが東京に進出して來て、銀座の眼抜きの場所は、大部分大阪カフエーに壓倒されて居ます」
總裁「ヘエ然うかい、大阪のカフエーが東京に進出して來たのかれフンそれぢや東京のカフエーが堪らんぢやらう」
記者「ハルビンのキャバレーは何うです、總裁は見られましたか」
總裁「見ない、見に行く必要なんかなかつたのぢや」

不良老年仙石

記者「所でカフエーで思ひ出したが總裁はカフエーの若い孃などの中でも噂に上りますよ」
總裁「ヘエ?何うしてぢや」
記者「總裁の寫眞が新聞によく出るがアノ髭髯をグルリと半捲きにして端をダラリと下げて居られるアノ恰好が不良少年少女にソツクリだと云ふのです、それで仙石さんは偉い方だが多分不良老年だらうなんて……」
總裁「一體日本人は何う捲くのぢや、溫かい時半捲きにするのは當り前ぢやないか」
記者「捲かずに襟の中に納めて置くのが普通です」
總裁「驚いたな、そんなことを云ふ奴も居るのかい、ハハ、、」

安樂椅子

大連醉翁英國[illegible]デニグさんは[illegible]ろドクトル[illegible]グさんの子息[illegible]が、そのド[illegible]デニングさん[illegible]故人となつ[illegible]三郎さんなどの先生であつ[illegible]の子息のデニグさんが[illegible]て大連に駐在する日本さ[illegible]親み、經濟のあることは[illegible]デニングさんは近頃、盛ん[illegible]譜の研究に熱中し、普通の[illegible]ごは聽解前で古文、古典[illegible]眼を通し非常な日本通と[illegible]ありとは懷母しい▲今年[illegible]の春を迎へた立川卓堂[illegible]左の如き五絶を寄せて來[illegible]朝思親、何當宮平賓、自[illegible]生爲日本人。卓堂七五翁

羊

【懸賞寫眞乙賞入選】　大連　木下勇氏

伸びよ肥えよ
滿洲運動界への望み

紅濤る瑞龍たる昭和六年の初光は彩雲擁して金鷄鼓せ通ふ遙か東空を静かに破つて今や大八洲の津々浦々に輝き始めんとす萬人齊しく聖壽の無窮を壽ぎ奉る、吾人は今この新らしき年を迎へて新らしき心の躍動を覺へる、日本のスポーツ界の隆盛は年と共に倍加し駸々乎として沖天の氣勢を示す、水に陸にその躍進振、極東の一角に世界スポーツ界の一中心點を建設することも決して不可能なことではない、努力研鑽の四字は世界スポーツ界の一大王國たる日本となすべき最大のモットーである、翻して今やスポーツは一部の人々の獨占するものではなく大衆化され民衆化され社會化されつゝある、この機運を助長して國民體育を發興せしめるには當局の後援と擁護である、當局の諒解と誠意と熱なくして擧國的好果は望み得られぬ

▲　▼

伸びよ肥えよと希ふ親は先づ食を與へ衣を給する、與ふるものなくしてその兒の完成は期せられない絶大なる後援と擁護は社會スポーツ發展の當然の前提である、スポーツの價ものたるかを解したならば當局が常套の逃辭とする經費の問題や豫算の關係は立ちどころに解決される、剛健なる國民精神の陶冶、剛健なる國民體力へのスポーツたることを解するとき層々たる今の費用がなんであらう、國家百年の大計を洞察するとき運動施設の經費が如何に安價にして有效なるかを考へるとき机上の概念はスポーツに依る絶大な効果によつて自ら抹消される

▲　▼

滿洲のスポーツ界も年々益々隆盛に向ひ昭和六年度の最大事業たる氷上選手の歐洲派遣、奉天に於ける國際グラウンド開き等々に依つて新一層の光輝を増さんとしつゝある、氷上選手歐洲派遣は日本スピードスケート界の世界進出への第一歩であり、一昨年暮大アイスホツケー、チームの歐洲遠征とともに日本スケート史上に一新紀元を劃するものである、吾人は滿腔の誠意と後援とを以て派遣選手を送る

▲　▼

奉天の國際グラウンド開きは一グラウンド開きにはあらず、國際都市たる奉天のグラウンド、名實ともに恥しからぬ國際グラウンドとしてのグラウンド開きであるが故に吾人は内外人一流選手を招待のうへ一大國際競技を擧行されんことを要望して止まない

▲　▼

體育館建設の急務は今更喋々たるを待たず、兩三年前よりこれが建設をせんとする案が各識者間に擬し種々計畫されたが經費問題において行詰り未だその實現を見ず前途暗澹たるものがある、昨年東北、慶應兩大學籠球チームの來征に際し體育館を有せざるために撫順に寄せる觀衆を收容し切れず收容人員を僅に三百名に制限、そのうへ夜間使用設備のなき滿洲高女の講堂を使用したため試合中途に電燈消えて廿五分間試合停止のやむなきに到るの醜態があつた、實に不愉快なる出來事である、收容人員三百名中の過半數は出場チームの關係者を以て埋められ折角のファンは門前より折返すの始末である、斯の如く體育館の新設は急務で、吾人は體育館の新設を切望するものである

▲　▼

明け行く大空のほがらかさよ……明治、大正の模倣殆興の時代は過ぎて今や完成期に近づきつゝあり民衆化された社會スポーツのために吾人は新らしい年とゝもに新らしい心の躍動を覺える（立上生）

人工ラジウム
發生方法發見さる
アメリカ化學奬勵協會が年次大會にて發表

【クリーブランド三日發電通】米國化學奬勵協會は三日その年次大會を當地に開き千九百三十一年度同協會奬勵金一千弗をエル、アール、ハフステツド氏及びオー、デール夫人のラジウム放射線人工發生法に關する論文に對し授與する旨決定發表した其方法は五百萬ボルトのエツキス光線用トテンスミツターに特殊のチユーブを裝置しこれを電壓二百萬ボルトに於て放射線を働かしめるときは僅に三インチ厚さの鉛板を通す強力な作用を示すに至るもので、この大發見に依りラヂウムの價格は必然的に低下を來すだらうと豫期されてゐる

舞臺に立つ村田監督
『紙風船』を實演
日活の名花夏川靜江と共演
六日夜の協和會館

本社主催
の滿洲映畫鑑賞會の第一擧として來る六日午後七時から本社主催大連滿鐵社員倶樂部後援の下に滿鐵協和會館に於て『村田實と夏川靜江の夕』を催すが、既報の如く村田實監督の勝者敗者」名映畫「灰燼」十巻の外に村田實氏が特に夏川靜江と共演して岸田國士作「紙風船」一幕を上演することになり「村田實と夏川靜江の夕」は愈々興味百パーセントとなり内地に於ても未だ嘗てない村田實監督と夏川靜江の舞臺に於ける

顔合せに
接することは再び得られぬ滿洲映畫界の一大收穫である、殊に村田實監督が舞臺に立つことは故小山内薫氏の築地小劇場にあつた以來八年振で映畫界に入つて最初の舞臺であり、夏川靜江も亦、四年振りの舞臺でスクリーンに於ける村田監督と夏川靜江の良きコンビネーシヨンを名戯曲「紙風船」の舞臺に見やうとは何人も豫想しなかつたところであらうから、當夜の盛況が豫想され、いよいよ物凄い

前人氣を
以てこの意義ある「村田實と夏川靜江の夕」が期待されてゐる

海陸懇親會
大連海務協會主催第二回海陸新年懇親會は來る五日午後六時より同會附屬海員會館において擧行すると右は陸海の關係者を殆ど網羅するもので盛大を豫想されてゐる

聖上陛下あす
大宮御所に行幸

【東京四日發電通】天皇陛下には六日午後一時二十分大宮御所に行幸遊ばされ同四時還幸の御豫定である

皇太后陛下宮城行啓
【東京四日發電通】皇太后陛下には五日午後一時三十分大宮御所御出門宮城に行啓遊ばされる

高松宮兩殿下
【ベルグラード三日發電通】高松宮兩殿下には本日當地に御滯留遊ばされたが當地では直ちに歡迎宴が種々豫定されてゐる、なほ兩殿下御一行は五日朝アテナに赴かるゝ御豫定である

景氣の回復
アメリカの金が世界にバラまかれるとき
今春初の歸朝者談

山道襄一氏談
【横濱三日發電通】本年最初の歸朝船淺間丸は三日午後一時船客六百八名を乘せて横濱に入港したが乘客中には萬國議會商事會議に列席した民政黨山道襄一、救世軍山室軍平氏等があつた

歐洲を通じて英雄崇拜の氣分が擡頭しつゝありイタリーのムツソリニーやドイツのヒツトラー等は非常に歡迎されてゐる、また各國とも政情が不安定で他方軍事思想普及軍備充實を考慮してゐる事は意外の感があつた、これを思ふと國際會議に於ける平和的決議の如き餘しの權威も効力もないと思つた、不景氣と失業の風は世界的に吹きまくつてゐる各國の經濟狀態不安の爲めアメリカ資本家は鎖國主義を採つて海外投資を差控へてゐるそれでアメリカの金が世界にばらまかれる時が來なければ景氣の回復はむづかしい、またロシヤのダンピングも一つの脅威となつてゐる、ロシアは今度は財政的、經濟的に世界をソウエート化せんとしダンピングの新戰術を用ひ出したのである、即ちロシヤは五ケ年計畫に依り國産品を各國に出しダンピングに依り各國を經濟的に疲弊せしめその結果各國の經濟社會組織の變更を爲させやうとしてゐる

山室軍平氏談
ロンドンに開かれた將官會議に列したが會議では救世軍憲法の改正が行はれた、日本救世軍本年の新事業は癩病患者の收容と慰安に在り此のためアメリカで二十萬圓の金を貰つて來た、ロンドン滯在中不景氣と失業問題に出會したが流石英國で少しも狼狽せず要するに失業保險法と宗教的訓練の結果だと思つた

ブルース夫人
飛行を繼續
四日、桑港に飛來して

【サンフランシスコ三日發電通】去る十二月二十二日オレゴン州メツドフオードで着陸の際逆立となりプロペラー及び翼機を破壞したブルース夫人の「醉い島號」は修理全く終り三日のテストの成績も良好、夫人の負傷も全治したので四日當地に飛び引續き米大陸横斷飛行の旅を續けることゝなつた

フイガーに
北大豫科優勝
全國高校氷上競技大會

【盛岡三日發電通】二日行はれた全國高等學校氷上競技大會のフイガースケーチングの成績は三日午前九時左の如く發表、個人競技は學習院德川一等となり、對校競技は得點數を綜合した結果北大豫科が優勝校となつた、なほ各選手各種目別の得點は驪點規約に依り發表せず順位點のみを發表した

▲個人競技

		順位點
一等	德川　家秀（學習院）	三點
二等	大内　敬治（旅順工大豫科）	六點
三等	高野　孝（二高）	九點
四等	中島　國雄（北大豫科）	一三點
五等	賀井清次郎（同）	一四點
六等	五十嵐久成（同）	一六點

▲對抗競技
優勝校　北大豫科

城大豫科軍
優勝す
ホツケー戰に

【盛岡四日發電通】全國高等學校氷上競技大會アイスホツケー決勝戰は四日擧行、京城帝大豫科は六對二で松本高等學校を破り選手權を獲得した

門司の火事
全半燒十七戸

【門司四日發電通】四日午前二時半市内中町二丁目岩永醫院附近より發火し午前四時鎭火したが全燒六戸、半燒け十一戸を出した、なほ岩永醫院の入院患者は皆避難した

かるた
安保海相の家庭

寫眞は向つて右より長女楠さん、令孫日出子さん、八千代さん、清嗣さん、次女櫻代さん、すへ子夫人、四女怡代さん、安保海相三女富久代さん、次男次郎さん

善照寺五人殺し
片割れ捕はる
四犯の豆腐屋と俳優

【東京四日發電通】昨年十二月二十六日東京府下松江町東小松川善照寺を襲ひ住職以下五名を斬り重傷を負はせた四人組強盗中櫻井鶴次（二）高橋國太郎（二七）（これは上野美術協會宿直員殺し犯人）の二名が逮捕されたことは既報の如くであるが、爾來警視廳では殘る二名につき搜査中のところ右は櫻井の自白に依り同人の弟千葉縣因幡郡大森町、當時同郡永治村豆腐製造業前科四犯櫻井長吉（三二）および當時府下瀧ノ川町瀧ノ川倶樂部の俳優市川吉輔こと大河内四郎（二一）と判明、長吉は三河島町八一四加藤いし方に立廻つたところを、また四郎は三日夜十時ごろ前記瀧ノ川倶樂部で開演中の「次郎長外傳」に出演のため樂屋に來たところをいづれも逮捕した

旅順の消防
出初式
六日に擧行

旅順市における消防出初式は恒例に依り來る六日午前七時より敦賀町屯所内に於て擧行される事となつた、當日は機械器具の點檢を爲し八時加藤署長の訓示、組頭の答辭に次で一同勢揃ひのうへ九時昭和園前の大廣場に繰り廣て用意の高さ十五尺の櫓、約二間四方の小屋に點火模擬火災を行ひ、組員は三班に分れ防火に努めるといふ勇壯な演習を行ひ、一方水壓試驗を行ひ同十時終了のうへ市中を練り歩き所に於て梯子乘の妙技を爲す豫定である

ドックス號の
大西洋横斷
一月下旬に愈よ決行
修理漸く完了に近く

【リスボン三日發電通】大西洋横斷飛行を前に當地滯留中、去る十一月二十九日火災を起して左翼を燒いたドイツの巨人飛行艇ドツクス號は、その後ドルニエ氏の緊命に基き豫定の大西洋横斷計畫を斷行すべく鋭意修理を急いでゐたがドイツから急送した材料を以て既に大部分の工事を終り一月二十日までには修理完了の見込が立つに至つたので多分下旬中にはいよいよ大西洋上へ乘出すはず、目下の豫定は先づ南米リオデジヤネイロへ飛びそれから北上してニユーヨークに赴くことゝなる模樣であるなほ修理に際しては新に四個の補助ガソリンタンクを增設し航續距離の增大を圖つてゐる

（前略）ダーカツプ爭奪飛行にフランス水上機三機の參加通知を受けた、これでイタリーの三機、イギリスの四機と合せて十機がスピード競爭の白熱戰を行ふが本年は時速四百哩の新記錄が生れるだらうと期待されてゐる、なほ競技場は多分昨年と同じくソレントとなるであらう

編物とお料理
の二大附録つき

婦人倶樂部新年號は婦人雜誌界第一の大奮發！これを買はぬと大損確方も賣切れぬ中にお求め下さい

英佛伊參加
飛行競技
十機に達す

【ロンドン一日發電通】イギリス王立飛行倶樂部は本年度シユナイ

ジヨ元帥逝去
で陸相弔電

【東京四日發電通】ジヨツフル元帥の逝去に對し宇垣陸相は四日日本陸軍を代表して佛陸相に對し深厚なる弔電を發した、又同元帥の葬儀には宇垣陸相、金谷參謀總長より各花環一對を靈前に供へるやう在佛大使館附武官に訓電した

國産の名藥
痔と肺藥
責任を以て推奬

小松内大臣平田東助伯の三家が從來土佐名物の秘傳藥で名高い痔の外用藥、肺の内服藥は植物の根莖が主成分で數年前から全國に賣出し特許を得許され且つ無效の場合代金を返却する信用を以て名藥界の權威たる折紙を附けられたが大藏省の〔　〕へた食餌療法と攝生の秘傳を公開せる同家秘藏白五十頁の自宅療養書は（高知縣…小松屋藥本家）（宛名不要）ハガキ出せば安全に郵便が着き無代送呈されます（廣告）

米大統領秘書
パ社に入社す

【ワシントン二日發電通】フーヴアー大統領の秘書ジヨージエイカーソン氏は本日辭職しパテマウンド映畫撮影場會社の重役會に入つた氏のメ社重役としての年俸は三萬弗である

十萬の英炭坑
夫罷業

【カーヂフ（イギリス）一日發電通】イギリス炭坑法中の二週間九十時間延時間制度の適用方法に關して三十一日行はれた炭坑主側との交渉が失敗に歸した爲め、當地炭坑地帶の十萬の坑夫は遂に入坑を拒絶するに至つたが、遲くも三日間休坑の後交渉を再開して解決の方法を講ずるものと見られてゐる

英經濟使節一行
きのふ奉天に到着

英國經濟使節トンプソン氏一行十一名は四日朝北寧線で北京から來奉、ヤマトホテルに小憩の後、同日十五時半發急行列車で北滿視察の途についたが、一行は十日ごろ來奉、當地大連等を視察し安奉線にて日本に向ふ豫定である

竹森義雄氏
元滿鐵學務課圖書館主任竹森義雄氏は本月二日朝急病で自宅京都市下京區吉田二本松町六一で死去した

ラヂオ

大連　JQAK
五日午後七時

▲ラヂオ體操
▲長唄（勧進帳）唄杉山フミヨ　同杵屋六勝江三味線杵屋六志女
▲常磐津（子寶三番叟）彈語り山下千代
▲魔談　川田梅治、正木ツネ
▲浪花節（乃木將軍淚し物）　志摩芝風

東京　JOAK

洋樂の夕
▲獨唱　ソプラノ田中宣子、ピアノ伴奏柳原直（メンデルゾーン作（一）歌の翼に乘りて（二）搖籃のかたわらにて（三）ズライカ「シユーマン作」（四）異國にて（五）君は花の如し（六）間奏曲（七）月夜（八）ケンテイ
▲ピアノ獨奏　マキシムシヤピロ（一）アンダンテーのト調變ロ短調シユーベート作「以下シユーマン作曲のもの」（二）水のたわむれ（三）妖性の輪舞（四）マノホノホ（五）タランテラ舞曲
▲獨唱　武岡鶴代、ピアノ伴奏柳原直（一）バツハ作信仰に滿てる家か心（二）ベートウベン作我御身を愛す（三）口づけ（四）ブラームス作我等さまよいて（六）シシヤ（七）鷲に（八）かひなきセレナード
▲管絃樂とヴイオリン獨唱（日本放送交響樂團）バイオリンロバルトポーラツク（一）瞑想曲の中より「ブルツク作」（二）序曲フイガルの洞窟メンデルスゾーレ作二重放送八時、九時三十五分洋樂の新進田邊尚雄

虹と兜虫 (3)

龍膽寺雄 作
一木弴 畫

兜島に住む人たち (三)

「あなたの體、ガソリン臭いわよ」

崩れの玄關から廻して貰つた幽の草履をつッかけて、幽をつれだつて、驟雨に濡れた飛石を傳ひながら、瓏珊が言ふんでした。と、

——ふと彼女は足をとめて

「あら、飛行機宙返りをしてるわ」

幽は低い森を越してキラキラと朝日を躲返した海の上に、刄物の樣に時折翼を光らしながらクルリクルリ廻つてゐる飛行機をちよいと仰いで、——ルヴアシユアの襟の邊を指で弄つてみるんでした。

「ガソリンぢやないベンヂンでせう。こゝんとこ汚れたので、ベンヂンで昨夜拭いたもんですかられ」

さうして、大理石のかけらの散らばつた傾斜を先に立つて歩きながら、

「今朝の虹識つてますか?」

「無論」

「無論?」

幽は足を止めて、瓏珊を振返るんです

「無論……それから?」

「無論、識らない!」

瓏珊はしなやかな友禪の肩を幽に凭らして、朗らかに笑ふんでした。夜の靜寂をそのまゝ持越した樣な森の靜けさ!彼女の笑ひ聲はその中へ珠の樣に朧朧と反響するんでした

「あたし、だつて昨夜寢んだの一時よ」

「僕なんぞ二時ですよ」

「ぢや、あれから何してらしつたの?」

「だから、今言つたぢやありませんか」

幽は存外冷たい濕つぽい瓏珊の手に指をとられたまゝ

「ルヴアシユカの襟を拭いてたんです」

昨夜瓏珊は、山莊番の木島老人と綴ケ丘氏と幽と四人で、木隱閣の能舞臺に隣つた控の間でトランプをやつて、十二時過ぎまで眞の闇の中で夜更かしをしたんです。オオクション・ブリツヂで勝つた組と負けた組とがそれぞれじやんけんをして、選手を出して強制的に互に接吻をし合はなきアならないといふ規定だつたんでしたが綴ケ丘氏は仕方なし、「瘤取ぢいさん」と瓏珊に綽名されてゐる木島老人の、水ッ涕の光る鼻の下へ唇を吸ひ付けたわけなんです。

「つまんないわ!」

夜別れぎはに瓏珊は、鼻から甘へて幽に言ふんでした。

「じやんけんで負けた組が選手になるとよかつたわれ。……瘤取ぢいさんに接吻するなんて、された方でもした方でも迷惑だわ」

「朝御飯のあとでまたブリツヂしない?」

瓏珊は谷へ下りる木の根の階段を幽に手を取られて要心深くおり乍ら言ふんでした。

「あたくし、今度きつとぢやんけんに勝つわよ」

「だツて」

と幽は齒刷子を啣へかけて

「お客樣が今日は島へいらッしやる筈でせう?」

「でも」

と瓏珊はちよいと諂つて、

「あたし、玖須さん嫌ひよ。お父樣たちお見えになつたら、あたしどこかへ隱れちやふわ」

さう言ひ乍らも、しかし瓏珊の顏には何かしら浮々した一抹の輝かしさが現はれるんでした。

お客樣の玖須さんといふのは、白鳥家の母方の親戚にあたる玖須子爵の若い當主の事で、去年の春大學を出てから暫くヨーロッパの各地を遊び廻つて、このお正月に歸朝すると、新聞に專攻の美術評論の筆などをとりはじめたんでしたが、最近繁々と白鳥家に出入をして、兜島の木隱閣に伯爵が秘藏するヨーロッパの古美術の研究をしたり、時には伯爵夫人や瓏珊たちと他愛もなく幾日かを島に遊び暮したりなんぞしてゐるのでした。

新刊紹介

▲滿蒙事情(第一一一號)「來秋開かるべき太平洋會議に就て」「國民政府の漢口日租界回收提議」「時局の大詰とも觀るべき四中全會」「蔣張會見後の支那局勢」「全國工商會議に於ける各種提案」「招商局の整理問題」「最近の東支鐵道に於ける重要問題」其他各種の經濟資料統計を收錄す(價五十錢滿鐵發行)

▲植民(新年號)「國際友誼の增進を海外發展」幣原喜重郎「新日本作興座談會」尾崎行雄、田川大吉郎、豐國千瑠、畔田明、内藤英雄の五氏「海外成功の秘訣百ケ條」勝田氏「海外成功への道」内藤英雄「健在す樂天地ブラジル」矢崎節夫その他海外發展への懇切な手引書として體驗談、海外通信を豐富に盛つた本誌に更に別冊として「海外金儲讀本」を附錄として添付(價六十錢東京麹町區下六番町五〇日本植民通信社)

▲日本魂(新年號)「明治天皇御製謹講」千葉胤明「陸軍特別大演習に御供して」野口明「明治天皇の聖德と教育勅語」中村孝也「米價崩落の國民經濟的意義」上山滿之進「支那の正月」後藤朝太郎「日本殉國記」額田元福其他(價三十五錢東京市京橋區南八丁堀一ノ九、一〇其社)

▲海外(新年號)「新日本繁榮の道」神田正雄「今日の歐米瞥面想」大西齋「歐羅巴聯合國の話」小林新作「革命支那の新聞戰線から」小秋元隆一「臨都モスクワのお正月」戸叶武「我國海外移植民事業のこの行詰を如何にして打開すべきか?」八氏其他(價四十錢東京市芝區愛宕町三丁目其社)

▲戰友(一月號)「新春を迎へて」宇垣陸相「年頭所感と予の希望」一戸兵衛「旅順攻圍中の春」大倉桃郎「羊のはなし」幸田露伴「現代農村と其の振興策」山崎延吉其他(價十錢東京市牛込區原町三丁目帝國在郷軍人會本部)

▲同仁(一月號)「社頭雪」齋藤茂吉「更新の意氣と同仁の精神」坪上貞二「上海視察中意外の數々」下瀨謙太郎「支那秘藥物語」中野江漢「支那正月の食べ物」井上紅梅「旅料爭議」正木不如丘其他(價二十錢東京市神田區北神保町二十番地其會)

▲冬柏(一月號)短歌雜誌(價三十五錢東京市下井荻町下荻窪冬柏發行所)

▲滿洲短歌(一月號)價三十錢市內桃源臺二九六滿洲鄉土藝術協會

▲農業の滿洲(十一月號)市內紀伊町八五滿洲農事協會

▲海外經濟事情(五十一號)有望な輸出商品、護謨業不況對策と和蘭經濟誌の論說、英國綿業不況對策報告書に對する審議會開催と首相の聲明、民國對印度貿易進出策其他(二十錢外務省通商局)